

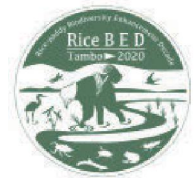
~~下は無いものと予測しています。~~
~~ただ、地下空洞の正確な把握には~~
~~限界があることや、先に挙げたよう~~
~~な、工事に伴う振動や地下水脈の変~~
~~化等に伴う周辺環境への影響は未知~~

~~数です。すでにリニア新幹線は開業~~
~~に向けて着々と準備が進められてお~~
~~り、事態はきわめてひっ迫していま~~
~~すが、愛知県弁護士会公害対策環~~
~~境保全委員会では、引き続きこの問~~

~~題について今後も確実に取り組みを~~
~~進めていきます。~~

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

呉地 正行
 (ラムサール・ネットワーク日本 共同代表)



田んぼ10年プロジェクトとは何か

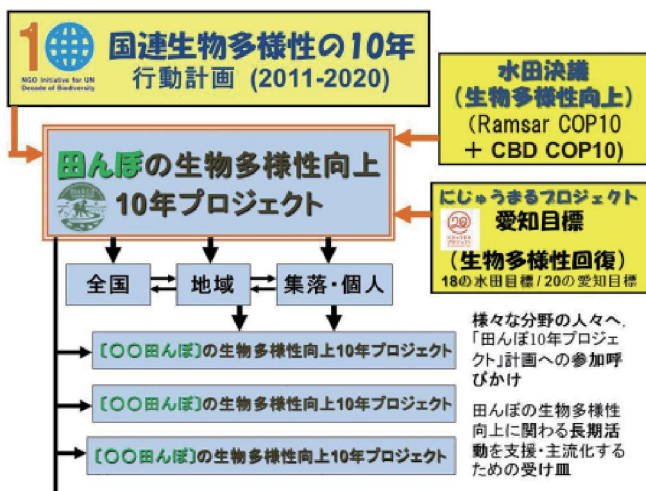
NPO法人「ラムサール・ネットワーク日本」(以下、ラムネットJ)は、田んぼが潜在的に持つ生物多様性を育む底力に注目し、その機能をうまく引き出し、その主流化をめざす、「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」(以下、田んぼ10年プロジェクト)を2013年に立ち上げました。この運動は、各地で田んぼの生物多様性の維持、向上に様々な立場から関わり、または関わろうとしている人々や、関心を持つ人達を対象とした取り組みです。参加者の皆さんには、田んぼの生物多様性のために自分で実施できる目標を最低一つ掲げ、その実行を宣言していただきます。ラムネットJでは、これらの方々が、お互いに情報共有できる場を提供し、参加者の力を束ねながら田んぼの生物多様性に対する関心とすそ野を広げ、新たな潮流を作り上げることをめざします。

どのようにして生まれた運動か

この運動は私たちNGOが関わってきた以下のような潮流から生まれました。2008年にラムサール条約第10回締約国会議が、韓国の昌原で開催されました。その時に日韓のNGOが支援し両国政府が提案した、水田決議(X.31. 湿地システムとしての水田の生物多様性向上)が採択されました。また2年後の2010年に名古屋で開催された、生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)の時に、ラムネットJと日本政府が協働し、ラムサール条約の水田決議の完全実施を締約国に求める農業生物多様性の決議(決定X/34)を採択することができました。同時にこれまでに損なわれてしまった生物多様性を回復するために、2020年までの10年に行う20の具体目標(「愛知目標」)を日本政府が提案し、採択されました。

また、この活動を生物多様性条約の枠を超えてもっと幅広く行うための枠組みとして、ラムネットJが発意し、CBD COP10での議論を経て国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」という枠組みもできました。この受け皿として、国連生物多様性の10年日本委員会(事務局:環境省)が立ち上がり、市民ベースでは国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)(事務局:日本自然保護協会)による20の愛知目標の達成と啓発を兼ねた「にじゅうまるプロジェクト」も立ち上がりました。ラムネットJは「田んぼ10年プロジェクト」を「にじゅうまるプロジェクト」に参加登録し、国連生物多様性の10年日本委員会の認定連携事業第1弾にも選ばれました。そして、その成果が大きく期待されています。

国際的な視点からも、「田んぼ10年プロジェクト」は、ラムサール条



約と生物多様性条約の締約国会議で採択された田んぼの生物多様性向上に関する決議の内容を具体化するため、その受け皿となることを目指しています。

田んぼ10年の歩み

私たちは、2012年11月に「水田の生物多様性向上のための行動計画づくりワークショップ」を開催し、既にこれらの分野で先進的な取り組みを行なっている地方自治体、団体、個人の方々とこれからの具体的な計画づくりを話し合い、「田んぼ10年プロジェクト・行動計画」<http://www.ramnet-j.org/tambo10/>を作りました。

「田んぼ10年プロジェクト・行動計画」は、愛知目標と水田決議を達成するための具体的な計画で、2020年に向けて、日本全国で活動を展開中です。この行動計画には、20の愛知目標に対応した18の水田目標とその目標を具体化した66の行動項目が掲げられています。

沢山の行動項目が示されていますが、これらの行動全ての実施を参加者に求めるものではありません。参加者の方は、それぞれの持ち味を活かせる分野の中から実施可能な行動を最低1つ選んで登録し、それを実践する宣言をさせていただきます。登録項目は、1つでも複数でもよく、途中から追加することも可能です。

参加された団体・個人から登録していただいた行動全体を束ねたものが、水田目標達成のための10年プロ

ジェクトとなります。これまでに、農業関係者、市民団体、企業、研究者、自治体、生協関係者など多様な約150の個人、団体が参加しています。

田んぼ10年プロジェクトは、より多くの方に田んぼの生物多様性にとって自分ができることを何かを考え、選び、登録して頂き、一人の百歩よりは百人の一步をめざします。個人や団体に関わらず、自分ができる範囲で参加し、お互いの交流を深めながら、これらの現場での一つひとつの取り組みが、国際社会がめざす生物多様性の向上に貢献しているのだということも実感できるよう配慮されています。

これまでの活動

これまでにやってきた主な活動を文末にまとめました。各地での啓発・普及・参加者増加をめざす地域交流会を4回、全国大会を1回開催し、にじゅうまるプロジェクトの全国大会などにも参加し、活動報告を行い、参加を呼びかけてきました。また、有機農業にとって最強の雑草であるコナギが高い栄養価を持つことに注目し、除草ではなく収穫し、資源としても利用する「コナギを愛でて食べる会」も4回開催し、その輪が広がってきました。

ラムネットJが農水省、環境省、国交省に呼びかけ、田んぼの生物多様性向上について議論をする、水田決議円卓会議準備会は、2009年以降継続し、これまでに50回開催されました。また地方自治体の生物多様



キックオフ集会集合写真

性地域戦略策定にも委員として関わり、その中には「田んぼ10年プロジェクト」が盛り込まれたものもあります。

国際的な場でも積極的に発信を行い、CBD COP12（韓国、2014）での英語

版行動計画のリリース、ラムサールCOP12（ウルグアイ、2015）での日本政府と共催した水田サイドイベントでのアジア、アフリカ、中南米の水田ネットワーク化の提案などを行ってきました。またJICA地球環境部と協働し、ウガンダ（アフリカ）での水田の生物多様性向上についての会議や、コスタリカ（中米）での湿地保全地域セミナーにも参画し、田んぼの生物多様の価値と重要性についてアピールしました。

啓発普及活動としては、メーリングリストやホームページ、田んぼだより、RamNet News、田んぼ10年のロゴシールの配布などを用いて、活動内容の発信を行い、国際的な場で使用する英語版の行動計画や報告書の作成、配布も行ってきました。

2020年に向けて

2020年は、田んぼ10年プロジェクトにとってのゴールの年となります。2020年に向けて、登録活動数500件をめざし、愛知目標と対応した水田目標の達成程度を検証しながら、より多くの目標達成をめざします。また、地域交流会の開催やその支援を今後も継続し、賛同者の輪と活動のすそ野をさらに広げ、田んぼの生物多様性向上を主流化し、愛知目標（水田目標）を軸とした「国連生物多様性の10年」のリーディングプロジェクトとなることをめざします。

情報発信の体制も強化し、関係者が利用しやすいHPを整備しつつ、水田を軸とした流域の一次産業のネットワークづくりも支援し、生物多様性を基盤とした循環型地域づくりへの働きかけも行うつもりです。

また、国内での取り組みとともに、水田との関わりが深い、アジア、アフリカ、中南米の関係者のネットワーク化を具体化し、田んぼ10年プロジェクトの国際的な枠組み作りもめざします。

ラムサール・ネットワーク日本水田部会では、田んぼ10年プロジェク

トへの参加を呼びかけています。一人でも多くの方のご参加をお待ちし
てます。活動状況や参加申し込み書
は、ラムネットJのホームページを
ご覧ください。

田んぼ10年プロジェクト、これまでの活動概要 (～2016年)

- 2011年～ ラムサールとCBDの2つの水田決議と愛知目標を具体化するための枠組みをめざす田んぼ10年プロジェクトの立ち上げ検討
- 2013年 田んぼ10年プロジェクト行動計画策定ワークショップ及び行動計画策定
- 2013年2月9日 田んぼ10年プロジェクト、キックオフ集会(栃木県・小山市)
- 2013年 国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業への認定
- 2013年 ロゴマークの作成
- 2013年 田んぼ10年メーリングリスト開設

田んぼ10年・地域交流会・全国大会開催

- 2013年8月24日 第1回地域交流会(宮城県・登米市)
(共催: RNJ・登米市)
- 2014年2月8日 第2回地域交流会
(大分県・宇佐市: 後援: 大分県・RNJ)
- 2016年1月22-23日 第3回地域交流会in琵琶湖
(22日: 野洲市, 23日京都市): 主催: RNJ
- 2016年2月26日 第4回地域交流会
(大分県・豊後大野市)
主催: RNJ・豊後大野市・大分水フォーラム
- 2016年3月13日 田んぼ10年プロジェクト全国大会
(東京都・秋葉原)

関連シンポジウム&講演会など

- 2012年 「にじゅうまるプロジェクト」参加
- 2014年2月15日 にじゅうまるCOP1大会(大阪市立大学)
- 2016年1月30日 なつみずたんぼシンポジウム
(東京大学)
- 2016年2月20-21日 にじゅうまるCOP2大会(名古屋大学)

コナギを愛でて食べる会・各地で開催

- 2014年7月12日/8月27日
(第1回: 蕪栗沼・周辺水田/ 第2回: 気仙沼・大谷)
- 2015年7月19日/8月20日
(第3回: 蕪栗沼・周辺水田/ 第4回: 気仙沼・大谷)

国、地方自治体との協働

- 2009年7月～ 水田決議円卓会議準備会定期開催
(農水省・環境省・国交省・ラムネットJ)
これまでに50回開催(2016年3月現在)
- 2010年～ 生物多様性地域戦略策定に参画
(佐渡市・登米市・宮城県)
- 2014年12月5-6日 第3回生物多様性を育む農業国際会議
(ICEBA2014)(宮城県・大崎市) 参画
- 2016年2月28日 世界湿地の日(WWD) 記念イベント「ラ

- ムサールが結ぶ荒尾干潟の海苔と蕪栗沼・周辺水田のお米」:(熊本県・荒尾市)
参画: 主催: 荒尾市
- 2015年3月 登米市生物多様性地域戦略に「田んぼ10年プロジェクト」盛り込まれる。
- 2015年11月21-22日 大崎市ラムサールフェスティバル
(蕪栗沼ラムサール10周年) 参画



国際的なネットワークづくり

- 2014年10月6-17日 生物多様性条約COP12
(ピョンチャン、韓国)で英語版行動計画をリリース
- 2015年6月1-9日 ラムサール条約COP12
(プンタデルエステ、ウルグアイ)で、水田サイドイベント([1112] Follow-up to the Rice Paddy Resolution (X.31))を、日本政府(環境省・農水省)と共催。アジア、アフリカ、中南米の水田ネットワーク化を提案。

【JICAとの協働】

- 2014年6月17日 JICA研修「地域における湿地の生物多様性の保全と持続的利用」を蕪栗沼で実施
- 2015年1月14日 ウガンダでの水田決議実践プロジェクト勉強会(JICA本部+ウガンダ(テレビ電話))
- 2015年2月24-26日 JICA中南米湿地保全地域セミナー「湿地における持続可能な生産」参加講演(サンホセ、コスタリカ)

啓発普及活動

- ・メーリング・リスト/ HPへの情報掲載
<http://www.ramnet-j.org/tambo10/>

【発行・刊行】

- ・田んぼだより発行 Vol.1-5
- ・RamNet Newsでの情報発信
- ・田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト行動計画刊行(2013)
- ・田んぼ10年プロジェクト・ロゴシール作成、配布
- ・Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries (2012 for Ramsar COP11) (英語版)
- ・Rice BED Access Guide刊行(2014 for CBD COP12) (英語版)
- ・Action Plan for Rice BED Project 刊行(2014) (英語版)
- ・Follow up to the Rice Paddy Resolution (Ramsar Res. X.31) Implementation Framework and RiceBED Project Case Studies刊行(2015 for Ramsar Cop12) (英語版)